

●最優秀賞

CAN-DOリストを活用した英語科授業の実践

福島県猪苗代町立東中学校 わたなべまきこ
渡部真喜子

はじめに

文部科学省では、小中高等学校を通じた英語教育改革を計画的に進めるため、「英語教育改革実施計画」を平成25年12月に公表した。その実践による課題をふまえ、「生徒の英語力向上推進プラン」を平成27年6月に公表した。

ボーダレス化が進む21世紀を担う生徒たちには、英語での実践的なコミュニケーション能力の向上と強化が求められている。英語科の教員にも、英語力向上並びに指導力の向上は急務とされている。

平成23年に「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」において、各中・高等学校が学習指導要領に基づき、生徒に求められる英語力を達成するための具体的な学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で設定すると提言された。

平成24年度に文部科学省の委託を受けた福島県教委の英語指導力向上事業で猪苗代町教委の指定を受け、CAN-DOリストの作成・開発と授業での活用为重点を置いて研究を進めてきた。中学校の拠点校は少なく、初年度は全国で25校であった。当初はCAN-DOリストそのものに対する認識がない状態であったが、様々な情報や文献、各種研修会で知識を深め自校のリスト開発に役立てることにした。本研究の過程の中で一貫してきたことは、「学習者主体」のスタン

スである。開発しているCAN-DOリストが、学習者の負担過重につながったり、学習意欲を削ぐようなものになったりしてはいけないと判断し、学習者にとって有益な存在となるよう改善に努めた。本研究の過程から見える有効性と今後の課題と展望について、本稿で述べることにする。

1 本研究の流れ

CAN-DOリスト作成・開発の過程を年度を追って説明する。

(1) 平成24年度

單元ごとに技能別の能力についてABCの三段階評定にしている。試案として作成したが、学習者への配慮はなく、実用的な使用には不向きであることに気づいた。評価基準との境目がなく、評価基準の同様のものを作っているような様相だった。

(2) 平成25年度

文部科学省の「CAN-DOリスト作成の手引き」や他県の拠点校、協力校のCAN-DOリストを参考にして、抜本的な方向転換が必要と感じた。学習指導要領に根ざし、3ヶ年を見通した学習者のエンドプロダクトを想定した内容になるよう検討した。

平成25年度版のCAN-DOリストからは、生徒

CAN-DOリスト NEW CROWN 1試案

LESSON 5		
読む	A	○ who, where, when, whose を含む疑問文及びその受け答えの文などの入っている文章を読んで、正確に理解することができる。 ○ 受け答えの文などに含まれる目的語や所有代名詞が文中で誰を指すのかを、すべて正確に区別しながら読み取ることができる。
	B	○ who, where, when, whose を含む疑問文及びその受け答えの文などの入っている文章を読んで、理解することができる。 ○ 受け答えの文などに含まれる目的語や所有代名詞が文中で誰を指すのかを、ある程度区別しながら読み取ることができる。
	C	○ who, where, when, whose の疑問文が入っている文章や会話文を読んで、大まかに理解することができる。
聞く	A	○ who, where, when, whose を含む疑問文及びその受け答えの文などの入っている文章を聞いて、正確に理解することができる。 ○ 受け答えの文などに含まれる目的語や所有代名詞が文中で誰を指すのかを、すべて正確に区別しながら聞き取ることができる。
	B	○ who, where, when, whose を含む疑問文及びその受け答えの文などの入っている文章を聞いて、理解することができる。 ○ 受け答えの文などに含まれる目的語や所有代名詞が文中で誰を指すのかを、ある程度区別しながら聞き取ることができる。
	C	who, where, when, whose の疑問文が入っている文章や会話文を聞いて、大まかに理解することができる。

と教師が共有して進化させるものという位置付けにした。まず、3ヶ年の見通しをもった全体リストを作成し(以下「全体リスト」と称する。)、次にそれを細分化した単元別のリスト(以下「単元別リスト」と称する)を作成した。二つのCAN-DOリストを存在させ、体系的な実践を考えた。

全体リストの作成では、学習指導要領と文部科学省の「CAN-DOリスト作成の手引き」を参考にした。学習指導要領の内容からの逸脱を避け、学習者が全員到達できるものとした。しかし、内容を精読してみると、書かれた文言が指導者側の表現であり、生徒には理解しがたい内容であった。生徒が身近に使うことができるものでなければ効果は期待できず、形骸化してしまうため、普段の授業で活用できる形にしようと考えた。全体リストはすべての根幹をなすものとした。

そこから生徒用に分岐させたものが単元別リストである。

単元別リストのCAN-DOリストの内容は教科書会社や本校の評価基準を照合し、生徒にとって分かりやすい表現に置き換えた。生徒自身が「できた」を判断する形式だが、アンケー

ト調査でよく目にする4件法を取り入れた。また、判断指標の表現は言語ではなく、絵文字を採用した。「よくできた」「まあまあできた」「できなかった」という言語表現がストレートになりすぎて、チェックすることへの意欲が持続しなくなるのではと判断したためである。デジタルネイティブと称される世代の生徒たちは、SNSやメール等で絵文字やスタンプなどのPictured Itemをよく使っている。それらを用いたほうが馴染みやすく、その時の感情をより反映すると考えた。

さらに、文字を目で追って単元別CAN-DOリストと教科書の単元を対応させることが難しい生徒もいる。より早く判別し、各ページと対応させるために教科書の関連ページの挿絵や写真をシートに貼り付けた。それにより、単元別CAN-DOリストのページを探し出し、チェックをスムーズに行うことができるようになった。

膨大な量のリストとなったが、単元ごとや授業の振り返りの素材として活用を始めた。当初は完全な自己判断によるチェックに戸惑う様子も見えた。自己判断に自信がない生徒や、自己評価の低すぎる生徒、または高すぎる生徒など様々見られた。

CAN-DO CHECK SHEET チェック用

LESSON 5 My Dream

話すこと	<input type="checkbox"/> 将来の夢について、英語でスピーチをすることができる。	1	2	3	4
	<input type="checkbox"/> 英語で書かれたスピーチ原稿を気持ちを含めて音読することができる。	1	2	3	4
書くこと	<input type="checkbox"/> 英語で簡単なスピーチ原稿を書くことができる。	1	2	3	4
読むこと(内容理解)	<input type="checkbox"/> 英語で書かれたスピーチ原稿を読んで、その内容を読み取ることができる。				

段階表記の文言を「よくできた」「できなかった」という文字化を避けた。意味の解釈が曖昧な生徒もいるためである。生徒達はふだんから絵文字に慣れ親しんでいるため、生徒の気持ちに近い反応が得られると考えた。

どの分野(領域)の力を求められているかを明示した。

学年 CAN-DO リストからの引用。教師がわかりやすく説明を加える。

文字を追うことがなかなか難しい生徒もいる。レッスンのページに掲載されていたイラストを貼り付けることで、学習したページと CAN-DO リストの照合が簡便になると考えた。

また、評価シート自体が一度しか使えない枠組みの設定になっており、変化の推移を判別しにくいものであった。

(3) 平成26年度

4件法からより細かく評価できるように6件法に変更した。これは、生徒に不評であった。生徒からの「真ん中があったほうがいい」という意見を受け、5件法に変更した。生徒の中ではまずスタートは「3」からという意識があるようで、「3」～「5」の範囲で推移するようになった。また、複数回チェックできる形式にしたため、変化の推移を実感できるようになった。チェックを重ねるごとに、自己判断にも慣れてきて、自己評価の低い生徒も臆することなく冷静に判断できるようになった。チェックするカテゴリーも教師が一斉に指示する前に生徒

自身で選ぶようにしてみたところ、生徒は授業の内容を振り返って、自分で適切にカテゴリーを選び出すことができた。

しかし、しばらくすると生徒の充足感を満たしていないことに気づいた。チェック項目以外にも自分にとって「できたこと」、「頑張ったこと」がある。

それを認める方法はないかと考えた。

そこで、生徒から「自由に書ける部分があるといいです」と声上がり、自由記述欄“What more can you do?”を設けた。リストの文言にはないが、自分で「できるようになったこと」「できなかったこと」などを書き留める欄である。実は、この部分があることで正直な気持ちや感覚を表出でき、充足感を満たす部分となった。生徒に評判の良かったこの欄を設けたことで本校のCAN-DOリストが進展したと考える。がん

5件法へ変更。複数回の使用で推移が分かる形式にした。

LESSON 6 I

CAN-DO CHECK SHEET

		date	😊	😊	😊	😊	😊
話すこと	□ 自分が尊敬する人物について、英語でスピーチをすることができる。	/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
書くこと	□ 尊敬する人物について等、英語でスピーチ原稿を書くことができる。	/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
読むこと(内容理解)	□ 英語で書かれた人物伝などを読んで、その内容を読み取ることができる。	/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5

date What more can you do?

/
/
/
/
/
/
/
/
/

	Class	No	Name
			

ばったところを認めてほしい、自分で「できた」を実感したいという気持ちを充足できる箇所ができたことは大きい意味を持つ。

2 生徒の変容～英語で書きたいCAN-DOリスト～

“What more can you do?”の欄を設けてから、生徒は様々な内省を書くようになった。学習者の心の動きが手に取るように分かり、教える側が見えていなかった部分に多く気づかされ

るようになった。

活用が進むにつれ、生徒から「CAN-DOリストの“What more can you do?”の所を英語で書いてもいいですか。」という申し出があった。生徒の好きなように書かせてみたところ、上位生徒はもちろん、それ以外の生徒にも英語で書く動きが広がり始めた。教師は一言も触れていないのに“I can?.”の文体で書いていた。教師より生徒の方がCAN-DOリストを熟知しているのではないかと考えさせられた場面である。

英語で感想や自分の感情を書き始めるようになると、表現の幅が広がり接触節や関係代名詞を使って書くようになった。英語の添削はせず、英語の表出に重みをおいた。生徒の、英語を書くという気持ちの高まりを実感することができた。

3 外部試験 (GTEC Core for Students) に見る英語力の向上

本研究の主な対象となった計40名の生徒のうち卒業までの間に、英語検定3級を21人、準2級が3人、2級が1人という成果をあげた。

客観的な指標としてGTEC Core for Students

を年1回受験した。実践的なコミュニケーション能力を測定する出題形式が特徴である。

どの技能の分野においても伸びが見られる。1年生の時には、多義選択の問題を当てずっぽうで問いたり、埋めることに終止したりする生徒も見られた。しかし、2年生から、確実に解くことができる問題が増え始め、3年生の段階では公立中学校にとっては比較的難易度が高いといわれるこのテストにおいて、高い得点をとることができた。本来ならばワンランク上のテストを受験すべきトータルスコア上限値440点の生徒も5名いた。

実践例

①生徒 A

6件法での実施

CAN-DO CHECK SHEET		date						
LESSON 4 The Story of Sadako		date						
書くこと	<input type="checkbox"/> 大切なことを伝えるメッセージを英語で書くことができる。	9/3	1	2	3	④	5	6
		9/5	1	2	3	4	⑤	6
		/	1	2	3	4	5	6
		/	1	2	3	4	5	6
聞くこと	<input type="checkbox"/> 英語のニュースを聞いて、その内容や情報を聞き取ることができる。	9/3	1	2	③	4	5	6
		/	1	2	3	4	5	6
		/	1	2	3	4	5	6
		/	1	2	3	4	5	6
読むこと(内容理解)	<input type="checkbox"/> 英語で書かれた物語を読んで、その内容を読み取ることができる。	9/2	1	2	3	4	⑤	6
		/	1	2	3	4	5	6
		/	1	2	3	4	5	6
		/	1	2	3	4	5	6

date What more can you do?

9/2	いつもよりも発音を気をつけた。早起にかいて覚えることができたし、この日は
/	覚えたいと思った。
9/5	自分の平和に対する思いを骨に伝えることができて良かった。他は
/	人の考えを聞くこともできた。
/	



②生徒 B

5 件法への切り替え

LESSON 6 I Have a Dream
CAN-DO CHECK SHEET

		date	1	2	3	4	5
話すこと	□ 自分が尊敬する人物について、英語でスピーチをすることができる。	11/2				4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
読むこと(音読)	□ スピーチ原稿を、相手に伝えるように気持ちよこめて、英語らしく音読することができる。	11/4				4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
書くこと	□ 尊敬する人物について等、英語でスピーチ原稿を書くことができる。	11/2					5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
読むこと(内容理解)	□ 英語で書かれた人物伝などを読んで、その内容を読み取ることができる。	11/2				4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5

date What more can you do?

11/13	後置修飾の文が書けるようになった。
11/13	過去分詞の後置修飾の文に慣れて理解できた。読み取れた。書けた。
11/14	過去分詞の後置修飾の修飾の意味が分かった。
11/2	これらが理解できるように分かりやすく言えるようになった。
/	



③生徒 C

5 件法への切り替え

LESSON 6 I Have a Dream
CAN-DO CHECK SHEET

		date	1	2	3	4	5
話すこと	□ 自分が尊敬する人物について、英語でスピーチをすることができる。	11/3	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
読むこと(音読)	□ スピーチ原稿を、相手に伝わるように気持ちをこめて、英語らしく音読することができる。	/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
書くこと	□ 尊敬する人物について等、英語でスピーチ原稿を書くことができる。	11/3	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
読むこと(内容理解)	□ 英語で書かれた人物伝などを読んで、その内容を読み取ることができる。	11/3	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5

date What more can you do?

11/13	得意伝(音読)を相手と違う声で伝えるように考えられた。
11/14	Created x made (違い)の違っ分けがいた。
12/6	アリスの伝にはこれはない。12/6、スピーチを作る時にかなり準備ができた。
/	/

「書くこと」における評価が正反対の例

スピーチ原稿を書くために和英辞書を使ったが、調べた単語や表現は聞き手が知らない単語ばかりだった。相手に伝わらない原稿を書いていたことに気づく。

わかりやすい表現に置き換えるなど、既習の表現を使って伝える重要性を認識した。

2クラスとも同じ内容での授業だったが、生徒の理解度が違うことが明らかになっている。教師が何をどう伝え、生徒がどのようにとらえたのかが分かる。

④生徒 D

LESSON 5 Houses and Lives
CAN-DO CHECK SHEET

		date	1	2	3	4	5
話すこと	□ 日本について、英語で簡単に説明することができる。	11/4	/	/	/	④	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
書くこと	□ 説明のためのメモを英語で書くことができる。	10/30	1	2	③	4	5
		10/31	1	2	3	④	5
		11/4	1	2	3	4	⑤
読むこと(内容理解)	□ 英語で書かれた図鑑・事典などの説明文を読んで、その内容や情報を読み取ることができる。	10/30	1	2	3	④	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
話すこと	□ 自分が尊敬する人物について、英語でスピーチをすることができる。	/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5

英語で書いてみる

英語での表出が多くなってきた。日本語と英語が混在しても、文法的なエラーがあっても、特に取り上げることはしなかった。
自分の言いたいことが伝わるような表現であれば構わないこととした。そのためか、とにかく英語で書いてみようという動きが増してきた様子が見られる。

What more can you do?

20	I can understand about some types of houses and there life style.
10	I can read and understand "Houses and Lives".
31	てんこくびさか I can fensaku.
4	I can show tea leaves. And I can speak with Jesture.

⑤生徒 E

date What more can you do?

11/13	後置修飾 はかんたんに。ing の単語を 1 か所 取り入る
/	Kochi Shushoku is easy for me. 1. 2. 3. の 3 つある OK.
11/4	修飾の意味を理解した。後置修飾を 1 か所 1 度 用いた。
11/2	自分の意と思ふ単語代表には適切な表現で 1 つ 用いた。
11/1	

⑥生徒 F

date What more can you do?

/	I can make 後置修飾の文。
/	I understand 後置修飾 (～さかた)。
11/2	専断スピーチについてのメモを取った
11/2	辞書で調べた単語が相手に伝わりやすいと気付いた
11/1	

⑦生徒 G

date What more can you do?

11/2	I learned Katsushaka. I can use this. I want to use this more well.
11/1	I can use Kakokushu for. I know Heijunji said in 60?
/	
11/2	I can write about the person I respect. But cannot I tell you.
/	

LESSON 6 I Have a Dream
CAN-DO CHECK SHEET

		date	1	2	3	4	5
話すこと	□ 自分が尊敬する人物について、英語でスピーチをすることができる。	11/12					5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
読むこと(音読)	□ スピーチ原稿を、相手に伝えるように気持ちをこめて、英語らしく音読することができる。	12/1				4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
書くこと	□ 尊敬する人物について等、英語でスピーチ原稿を書くことができる。	12/1			3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
読むこと(内容理解)	□ 英語で書かれた人物伝などを読んで、その内容を読み取ることができる。	12/1					5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5

date What more can you do?

11/13	I can use 係置修飾 and I can make sentences.
11/14	I can compare that 'how to use "created" and "made"'
12/1	When we make a speech, it's very important for us to speak understandable and keep in our mind about listeners
/	I can write sentences about the person I respect. Also, I can improve them by myself better than before.
12/12	I can introduce the person I respect. When I made a speech, I could eye contact and gesture. I was thinking about listeners when I talk.
	Class No Name
	When I was listening, I understand that my friends what they want to say.

既習の表現を用いながら、ある程度の文章量で言いたいことを表現している。

(1) ライティング力の向上

3年時では、ライティングのスコアで40人中29人が100点（満点）であった。「一日の学校生活のなかで、あなたが好きな時間はありますか。一つ取り上げて、なぜそう思うか、その理由を書きなさい」という出題に対し、20分で英文を自由記述していく内容である。限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力を測定し、「読み手に主張が伝わるか」が最も重要な評価ポイントである。（GTEC for Students 教師用帳票より一部抜粋）多少のスペルミスやローカルエラーを減点の対象とせず、読み手にいかに論理的に伝える英文構成になっているかが高スコアの条件である。

100点（満点）をとった生徒の中には、いわゆるWeak Learnerもいた。その場合、ライティングのスコアだけが突出している状態であった。リーディングとリスニングに関しては、公立中学校の普通の授業（教育課程の枠）の内容ではカバーしきれない側面があった。しかし、ある

トピックに対して、自分の意見を理由や経験を織り交ぜて伝える活動は、普通の授業で取り入れてきたため、このような結果を生み出すことができたものとする。

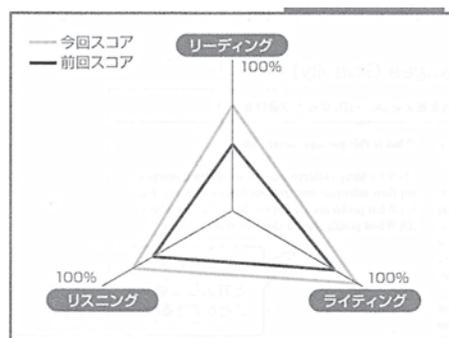
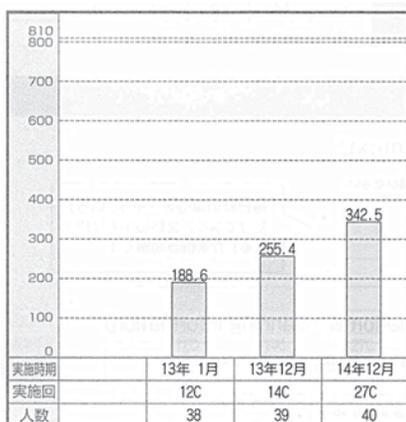
また、CAN-DOリストの“What more can you do?”の記述を英語で書くようになったため、英語で英語を考え、産出するハードルが低くなり、書く活動に抵抗感がなくなったことも大きいと思われる。

20分の間、辞書もなくひたすら英文を書き連ねることは、生徒にとって負担が大きく、苦しい作業である。そのような中でも、「読み手が理解できる書き方」を意識する大きなきっかけは、このテストのライティングの実施によるころが大きい。アメリカに送られる自分の原稿は、特別に訓練を受けた採点者が読むことになる。日本の中学生の実態を知らない、会ったこともない人に理解してもらえるように丁寧に書くようになった。

さらに、この「学校生活で一番楽しい時間」

(表) 平均点の経年変化（下段は最高得点）

受験時の学年	Total Score (440点満点)	Reading (170点満点)	Listening (170点満点)	Writing (100点満点)
1年時 39名	188.6 (278)	50.6 (86)	86.9 (134)	51.1 (88)
2年時 39名	255.4 (365)	74.1 (119)	103.3 (158)	78.0 (100→1名)
3年時 40名	342.5 (440→5名)	118.2 (170→10名)	129.2 (170→5名)	95.1 (100→29名)



というトピックに対して、「英語の授業」を挙げた生徒が多かったことである。本来なら、給食・昼休みや放課後の部活動、友達との他愛ないおしゃべりなど、中学生にとって楽しい時間はたくさんある。しかし、自分の語彙力で「楽しい時間」を英語で表現するには、普段から取り組んでいる「英語の授業」を題材に使うことで、なんとか読み手に返すことができると判断したのであろう。自分にとって書きやすい「内容」を選別し、相手により深く伝えることができるように工夫するようになったことも大きな進歩である。なかには、英語の授業の様子を的確に表現したものや、どう感じていたのかよく分かるものもあった。改めて、教師の指導力が生徒の英語力の向上に大きく関わっていることを実感した。

(2) 同一生徒に見るライティング力の向上と変化

① 1年時

出題テーマ：ふだんあなたが使っているもので、大切にしているものは何ですか。またその理由は何ですか。身近な事例や経験などを取り上げて、あなた自身の考えを書きなさい。

88点

WPM 40

My favorite penkece. It is X'mas present from mother. I use this penkece every day. It's my trasure. Bcouse it is cute and smoul. I like it, and I like my mother. My trasure is books too. It is amazing. This are present from my family. My family have many books. "Atasino yeruni" is my favorite book. I like it. It's I buy book. This book is big. It's careful.



② 2年時

出題テーマ：あなたが好きな曜日は何曜日ですか。また、それはなぜですか。理由として身近な事例や経験などを取り上げ、あなた自身の考えを書きなさい。

100点

WPM 45

I like Sunday. I have two reason. First, Sunday is my family's shopping day. My family often go to shop on Sunday. My family went to shop last Sunday. I bought some books and pens. Shop is very interesting. There are many kinds of things. Always we had good times there. Second, Sunday is my family's cooking day. We often cook many kinds of sweets on Sunday. My mother, and sisters and me are cook. My father take videos. We can make many memories, and We can make good time. In conclusion, Sunday is very important day. I like Sunday. My family likes Sunday to. My family can make good time and good memories on Sunday. Two reason are meaning. I like Sunday. Sunday is very important for my family. Thank you

③ 3年時

出題テーマ：一日の学校生活の中で、あなたが好きな時間は何ですか。一つ取り上げて、なぜそう思うか、その理由を書きなさい。

100点

WPM 80

My favorite time is English class. I have some reasons. It's going to explain about them. First, English class is very fun. English class teacher is very powerful. She always makes us exciting. When we had a summer vacation, she tells a funny story to us of her vacation in the USA. We don't know about the USA, so her talking things is very interesting. When we was first grade, she brought some snacks of the USA for us. She is very kind. Also, we students can enjoy talking with ALT teacher. His name is sayom sensei. He comes from Ghana in spring this year. He knows about his country very much so we can learn about foreign country. I can't tell them in English very well. what I want to say, but English teachers are very kind so I like English class very much.

Second, in the future I want to work in foreign country to improve female education around the world. To them, I have to learn about English and foreign country till now. So, in English class, I speak English as much as I can every day.

In conclusion, I like English class more than anything else in our school life. We have to out of our school in March next year, but I want to enjoy our school life with my teachers and with my friend. Thank you very much.

資料①～③において、多少のエラーはあるが、トピックに対して自分の意見を理由を含めて書いていることが分かる。学年が上がるにつれ、WPMの数値が高くなっている。論旨の系統性と構成力の向上も見られる。特に3年時の英文では、普段の英語の授業を読み手がイメージできるように書かれており、本人の将来的な展望も述べられている。CAN-DOリストのコメントを英語で記入しはじめた時期とWPMの数値の向上が重なるため、ライティング力の向上に大きく影響しているものと思われる。

(3) スピーキング力の向上

これまでの授業の中でも、「話す」ことに特化して時間を設け、生徒には「英語で考え、英語で反応する」ことを意識付けるよう指導してきた。授業のほとんどを英語で行っているため、自然にリスニングの力が強化され、それに伴う反応も英語での産出が多くなってきた。同時に、CAN-DOリストでの項目に「話すこと」の技能



が書かれており、生徒が自ずと目にするため、具体的な目標をイメージしやすく、求められている力は何かを把握できたと思われる。

スピーキングテストにおいては、原稿をメモ程度に準備する段階から、最終的にはあるトピックに対して即興で自分の言いたいことを相手に伝えることができるまでになった。文法的なエラーは度外視し、英語の産出を多くさせるよう心がけさせた。

プレゼンテーションの良い手本をビデオで見せるなど、人前で話す良いイメージももたせた。また、キーワードを書いたカードを作り、単語が出てこなくなった場合の「助け舟」としてもたせた。スピーキングに対する良いイメージをもたせ、「壁」を低くすることで取り組みやすさを感じ、更に話してみたい、表現してみたいという態度が見られるようになった。

また、生徒のスピーキング力の向上に教師の英語使用頻度が増えたことも大きいと思われる。前述のように、授業のほとんどを英語で進めているため、生徒は集中して傾聴し、おぼろげな理解であっても、周囲の様子を確認しながら活動に取り組んでいた。教室に一人はいるstrong learnerが発する指示内容の「つぶやき」を周囲の生徒は聞いており、それを参考にして動いていた。それが数回繰り返されると「自分」で理解し、「自分」の意志で活動に参加することができるようになった。たくさんの英語を耳にしていると、自ずと発する言葉にも影響が見られ、生徒の英語発話頻度も高くなっていった。教師の英語の問いかけにも、単なるオウム返しではない英語でのリアクションが返ってくるようになった。そのため、授業のテンポもよりスピーディーでメリハリのある展開へ変化していった。

さらに、生徒が英語で発表している場合についても同じように、英語で質問したり、感想を述べたりする場面が増えた。相互的な英語使用の場面も多く見られるようになり、英語を話すことへの抵抗や躊躇はそこにはなく、限られた

語彙の中でもコミュニケーションのツールとして英語を使う自然な雰囲気が醸成されるようになった。

4 生徒が発見したCAN-DOリストの意義

(1) CAN-DOリストは「感動リスト」

3年をかけて生徒に合わせて改良を重ね、CAN-DOリストの形態や様式は適宜変わってきた。その度に生徒の声を生かし、生徒とともに歩CAN-DOリストを目指した。單元ごとの振り返りを一気に單元別CAN-DOリストを用いて行っていたときのこと、ある生徒から「先生、これCAN-DOリストどころじゃないですよ。感動リストですよ」と声が上がった。單元別CAN-DOリストのページとデジタル教科書で該当ページを示したところ、自分が何をやって、どんなスピーキングテストをだれとやったのか、自分はライティングでどんな内容を書いたのか全て覚えている、または思い出したという。生徒は「覚えている自分に感動」したことで「感動リスト」の発言になった。CAN-DOリストは「覚えている」「思い出す」を想定して作成していない。学習者である生徒が、自分が何をやったか思い出すツールとしても有効であるという発見があった。これは、思いがけない一言であった。

(2) 英語の教室を飛び出したCAN-DOリスト

單元別CAN-DOリストを用いて授業の振り返りを行うようになってから、CAN-DOリストは次第に生徒に身近なものになってきた。町のスピーキングコンテストで合格率向上を目的として「全校縦割り学習会I'm Possible Time」に取り組んだ。3年生が「先生」となり、1、2年生に単語の書き方や文の覚え方を丁寧に教える内容である。これも、特別に発足した「東中学びのすすめ検討委員会（通称：まなけん）」のメンバーが中心となり、どの学習者も「伸び」を実感できるには、どのようなアプローチが良いか、なかなか覚えられない生徒にどのような

学びのすすめ I'm Possible Time

CAN-DO CHECK SHEET

「東中 学びのすすめ」		date	1	2	3	4	5
1	「Have! 高い目標」 □	11/26	1	2	3	4	5
		12/3	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
2	「アウトプット! to 友達」 □	11/26	1	2	3	4	5
		12/3	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
3	「Make! 中身の濃いノート」 □	11/26	1	2	3	4	5
		12/3	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5
		/	1	2	3	4	5

「Have! 高い目標」
□
友達が一緒に考えて、高い目標を立て、それに向かってがんばることができる。

「アウトプット! to 友達」
□
授業で学んだことや自分で考えたことをふまえて、友達と「私ならこうやって覚える」というやり方を共有することができる。

「Make! 中身の濃いノート」
□
友達と共有した考えをしっかりとノートにとり、次にどのように活かすか(改善するか)考えをまとめることができる。

生徒がチェックリストの文言を作成

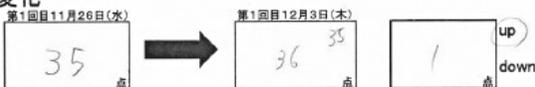
date What more can you do?

どんな小さいことでもかまいません。日本語で書いても、英語でチャレンジ書いてもいいです。

11/26	下等生に教えるのは難しかったが、できる限りのことは教えた。
12/3	みんな点数が上がってうれしかった。本番はみんなでうに上げてほしい。
/	考えを共有して大切で良かった。
/	
/	
/	

生徒(学びのすすめ検討委員)が考案した CAN-DO リスト 町内スプリングコンテストに向けた全校縦割り学習会で活用

点数の変化

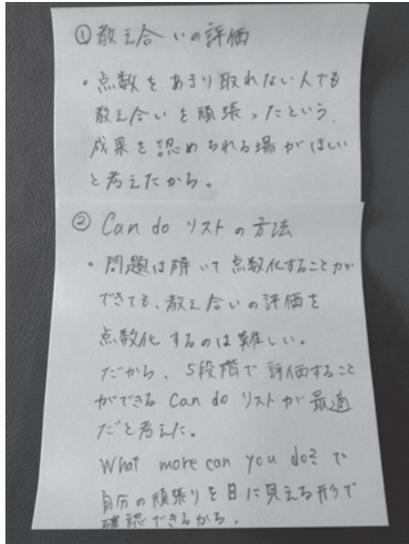


支援をすればいいかを考えながら、教え合いの学習活動に取り組んだものである。リーダーの生徒を中心に企画を考えていたときのこと、生徒から「まなけんCAN-DOリストを作ってください」という申し出があった。理由をたずねてみると、英語で使っているCAN-DOリストは自分がどのくらい伸びたのか、伸びなかったのか、何を覚えて、どんなことを頑張ったのかを自分で振り返ることができる。自分自身で確認するには最適のツールであると生徒は話した。リストの内容も生徒自身が考えるという。任せてみるところ英語のCAN-DOリストの表現から学

び取った「～できる」をしっかりと使っていた。今後の学習会の考察に役立てるといふ。生徒がCAN-DOリストの意義を認識しているからこそその動きである。

5 生徒アンケート実施

CAN-DOリストのさらなる改善を目指し、実際に活用してきた生徒たちにアンケートを実施した。



(1) CAN-DOリストをつかって良かったと思うところ

- 自分のできたこと、できなかったことが明確になり、復習に役立った。
- 英語で反省も書くことで、文章力が身についた。
- 「What more can you do?」の欄に何か書けると、わずかでも自分の英語力の向上が実感できた。
- 過去にやっていたことを振り返ることができて、できなかったことができるようになっていくことが分かって、自分の成長を実感できた。「まなけん」で活用できたことで、使い方の視野が広がった。
- 自己評価ができて、英語に対して少し積極的になることができたと思う。はじめは何も書くことがなくてためらっていたが、今では「What more can you do?」の部分も書けるようになった。
- 授業でやった内容を整理でき、自分で何ができるようになったのか、できたかった部分はどこなのか、目に見える形で表されたので分かりやすかった。
- 単元ごとに自分なりの反省や成長したことを言葉にすることで、より分かりやすく理

解することができた。また、次回からの目標を立てることができた。

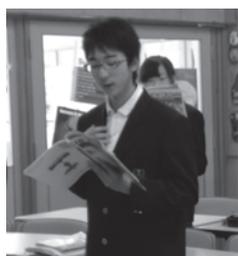
- 今まで、何ができて、何ができなかったのかを分からないで授業を受けていた。しかし、CAN-DOリストを使うことで、自分が「ここができたんだ」と改めて実感することができた。

(2) 生徒が考えた改善点

- ペアワークで授業をやった時には、相手の友達からコメントをもらえる欄があると、より達成感が生まれる。
- 「授業で習ったところのまとめ」のような欄があると、もっと脳に吸収できるかもしれないと思った。
- できなかったことを少し書く欄があると、自分の「できる・できない」を把握でき、これによって自分の足りない部分に分かると思う。
- その単元の基本文や例文があると、どの分野が苦手か分かりやすく見つけることができると思った。

(3) 英語以外にも（他教科でも）CAN-DOリストは活用できるか

- 他教科でも活用できると思う。分野別や単元別に「できる・できない」を書けば、後の勉強のヒントになるかもしれない。
- 他教科でも、いち早く自分の弱点に気づき対策をすることができるため、活用できると思う。
- 復習に役立つというメリットがあるので、5教科全てで使えると思う。
- 数学で解き方を載せれば、多分私でもすぐにできると思う。
- 数学など結果が目に見えるもので、「前回より～ができた」という感じで使えると思う。（例：公式を使うことができたか、問題の意図を読み取れたか、など）
- 英語と同じように単元で区切られているか



ら、数学や理科で活用できると思う。

- 国語だったら、「古文の意味を理解することができた。」などで使うことができる。
- 社会で歴史・地理・公民と分けて作ると、苦手なところを判断できるようになると思う。
- 社会で歴史の年号の豆テストを実施して、表に記入する形にすると、自分の苦手な部分分かる。

6 今後の課題と展望

(1) 課題

本研究ではCAN-DOリストを何度も改定をしてきた。その時に常に心に置いたのは「生徒が主体」であるということである。生徒はもちろんのこと、先生にとっても負担になるリストであるならば実用的・実践的ではない。より実用的な形式や形態、または簡便化を図り、学習者・使用者にとってさらに身近なCAN-DOリストの作成を目指したい。

また、本校の単元別CAN-DOリストはあくま

でも「自己チェック」である。客観的に見てかなり乖離している判定もある。特にWeak Learnerに多く、自己評価が高すぎる傾向にある。

本研究では、「自分で何ができるようになったか自分で分かる・理解する」ことに重点を置き、学習者の学習意欲と動機付けの維持・向上を目的としたため、客観的な視点はあまり入れてこなかった。他者から見たら、という視点を一切入れず、自分で自分を判断することを継続してきた。生徒は自己チェック型の単元別CAN-DOリストと、教師が出す学期ごとの評定とは関連しない、別物であると認識しているようである。今後、大きな課題としては実際の力との差をどう縮めていくかである。外部試験と関連付けて客観的指標を持つ役割を担えるのは本校の全体CAN-DOリストである。実際に、前述のように、本研究の主な対象となった3学年計40名の生徒のうち、英語検定3級を21人、準2級が3人、2級が1人という成果を上げている。単元別CAN-DOリストをあくまでも学習者の「自己満足」で終わらせるツールにするのか、またさらに発展させて、数値を用いて論理的に妥当性のある成果を説明できるツールにできるかが今後の課題である。

(2) 展望

本校におけるCAN-DOリストは、何と云っても学習者が「自分の今の状態（力：ちから）」を認識するツールとなっていることである。自分を振り返り、今の自分は過去の自分と比べて何ができるようになったか、できなかったのかを内省、表出することを通して、次への目標作りをしている。「考える」作業に真面目に取り組む時間を設け、次に生かす、この繰り返しはかなり意義深いと考える。

生徒が見出した有用性から判断すると、その意義を踏まえれば、英語以外にも活用できるともと思われる。英語教育で使うCAN-DOリストという概念だけではなく、CAN-DOリストそのものの内容と意義、有用性を理解すれば多様

性は広げることができる。本校の生徒が見出したように、英語の授業を飛び出して他の学習活動にも有効に活用できる。学習者支援のためのツールとしての可能性は大きいと考える。

自分が現段階で何ができているのかを自己分析的に捉え、次の段階へ到達するには何が必要なのかを具体的に指し示しているCAN-DOリストは、学習者にとって学習の過程をスモールステップで理解できる良きツールとなる。

また、教える側にとっても、学習者が何でつまずき、何を欲しているのかを直に感じ取れる大変有効なツールである。学習内容の全容を把握し、各単元での狙いを明確にでき、系統性を持って授業の構成を練り上げることができる点も大きい。

このことから、CAN-DOリストは教える側と教えられる側が学習のステップや到達度を共有化し、相互に質の高い授業の形成と英語力の向上・醸成に寄与できる有効な学習ツールの一つであるといえる。

おわりに

本研究では、CAN-DOリストとは何ぞや、と



いうレベルのスタートから始まり、試行錯誤を繰り返して今に至る。福島大学の佐久間康之教授、山形大学の金子淳准教授、宮城教育大学の鈴木渉准教授の各先生方、並びに福島県教育庁高校教育課・義務教育課・会津教育事務所の各先生方にご指導を受け、研究を進めることができた。また、猪苗代町教育委員会、各連携校の先生方のご理解・ご協力をいただき、研究の推進と強化を図ることができた。

また、拠点となる本校の教職員の盤石なサ

ポート体制と生徒たちの前向きな協力体制が原動力となった。研究を進める上で、身近な人たちの協力が何よりも必要となる。学習の主体者である生徒たちが、本研究の一番の理解者であり、協力者であった。あの生徒たちの協力あってこそ、なし得た過程と成果だと思う。本研究に理解を示し、惜しみなく協力してくださった全ての人に感謝しつつ、今後も英語教育の充実と発展のために尽力していきたい。

